

次期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方に係る

これまでの議論の整理（骨子）（たたき台）

0. 次期基本計画のコンセプト

- 予測困難な時代の象徴としての新型コロナウイルス感染症拡大による影響、浮き彫りになった課題と学校・教育の役割、学びの変容
- 誰一人取り残さず、すべての人の可能性を引き出すための教育の実現に向けて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、学習者（学修者）主体の学び等の充実を図り、日本型ウェルビーイングの概念整理を踏まえた上で、多様な個人のウェルビーイングの実現を目指す。また、共生社会の実現・地域コミュニティの再構築に向けて、個人と社会のウェルビーイングの実現をつなぐ学校や社会教育施設の役割・機能を重視する。
- 少子化・人口減少の中で、持続可能な社会の発展を生み出していく人材を育むため、主体的に社会の形成に参画し、生涯にわたって学び続ける学習者としての基盤を学校教育において培うとともに、社会や時代の変化に応じて課題を発見・解決するための学びを特に高等教育においていつでも受けられる教育・社会環境を整備する。
- コロナ禍を契機としてデジタルが飛躍的に社会に浸透。将来の社会基盤に変化をもたらすデジタルトランスフォーメーションを教育・学習全体の中に組み込む。
- これらを通じた価値創造により、人間中心社会としての Society5.0 の実現を目指す。

I. 我が国の教育をめぐる現状と課題

- 教育の普遍的な使命
 - ・教育基本法：前文、教育の目的（第1条）、教育の目標（第2条）
 - ・学制150年：我が国最初の全国規模の近代教育法令である「学制」が公布されてから令和4年で150年
 - ・改正教育基本法の理念・目的・目標は、我々が常に立ち返るべき教育の「不易」
- 第3期計画期間中の成果と課題
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響（グローバル人材交流や体験活動等の停滞、オンライン教育の普及、学校の福祉的役割の再認識）
 - ・GIGAスクール構想の成果、経済的負担軽減方策の拡充による進学率上昇
 - ・世界トップレベルの学力水準の維持と読解力の課題
 - ・小学校における35人学級の計画的整備や高学年教科担任制の推進等の教職員定数改善と支援スタッフの充実といった成果、またこれらの更なる推進
 - ・教師の人材確保の課題
 - ・子供の抱える困難の多様化・複雑化
 - ・大学生の学びの質・量確保の必要性、全学的教育改革の大学間格差、理系離れ、博